

# 地域の中で支える仕組みを

脳の慢性疾患で、けいれんや意識消失などの発作を伴うてんかん。100人に1人の割合で見られる、誰もが発症する可能性がある病気です。適切な治療によって発作を抑えられる半面、誤解や偏見も少なくありません。患者や家族が地域の中で安心して暮らすためには、どうすればよいのでしょうか。専門医や県、地域医療の関係者が意見を交わしました。敬称略。

## 医療鼎談 てんかんを考える

(コーディネーターは広島大副理事 山内雅弥氏)



広島大病院てんかんセンター長  
飯田 幸治さん



広島県医師会 会長  
平松 恵一さん

てんかんの特徴や最新の治療法を教えてください。

飯田 てんかんは大脳の神経細胞が過剰に興奮し、突発的に意識消失やけいれんなどが起きる病気です。治療は抗てんかん薬を飲むのが一般的で、この10年間に新薬が相次いで保険適用となつていきます。これらは副作用が少ないのが特徴です。

一方で2、3種類の抗てんかん薬を適切に服用して2年以上治療しても、月1回以上の発作が起こる場合は、「難治性てんかん」と判断します。そのような患者さんは、発作を引き起こす脳内の「焦点」を切除する手術を検討する必要があります。近年

者さんに外科治療もできる3次診療(てんかんセンター)と2次診療(県内の中核病院8施設)との連携強化を図っています。情報を共有するためのワーキング会議を年2回、症例のカンファレンスを月1回のペースで開いています。

今後は、2次診療を担う病院と患者さんを最初に診る1次診療(かかりつけ医)をつなげていくことが必要と考えています。初診で病気を見つける1次診療の役割は大きいですね。

平松 県内のてんかん専門医は広島市内に11人、福山市内に2人、呉市内に1人の計14人。地域によって偏っており、それをカバーするのが、かかりつけ医(開業

を受けた医師をオレンジドクターと認定する取り組みで、県内では945人が活動しています。てんかん診療にも、同様の仕組みが有効ではないでしょうか。

飯田 サンフレッチェ広島にも協力していただいて、啓発活動を展開しています。昨年9月と3月、エディオンスタジアム広島(安佐南区)にブースを設け、ちらしやコラボバッジを配布して市民にてんかんを理解してもらったための場をつくりました。プロスポーツのチームと組んだ啓発活動は、全国的にも注目されています。

また、患者さん自身が最新の治療法や病気の見通しなどを積極的に調べ、治癒の可能性を探る

## 患者さんが社会動かす 開業医の対応力アップ 診療拠点の連携を強化

飯田さん  
平松さん  
菊間さん

は磁気共鳴画像装置(MRI)や脳磁計(MEG)などによって、脳の画像診断技術が飛躍的に向上し、手術で発作が治まるケースが増えています。

そのほか、焦点がはっきり分からなかったり、手術で完全に発作を抑えられなかったりした患者さんには、症状を和らげる緩和手術もあります。発作の程度を軽くする効果がある装置を体内に埋め込む「迷走神経刺激療法」が2010年に保険適用になりました。

―専門治療の拠点「てんかんセンター」がある広島大病院(広島市南区)が、厚生労働省のモデル事業「てんかん診療拠点機関」に指定されて2年になります。県内のてんかん診療を取り巻く現状は。

菊間 広島大病院を拠点機関に指定した狙いは、患者さんがより適切な治療を受けられる医療ネットワークを構築するためです。その環として、難治性の患

医です。しかし、てんかんの知識が豊富な医師ばかりではありません。各地域の医師会が開く講演会の機会などを利用して研修を増やし、診断などの技術向上を図っていく必要があります。

―患者さんが暮らしやすい社会づくりが欠かせません。教育現場や就労面での支援は、どのような状況でしょうか。

菊間 てんかんに対する正しい知識が、社会全体に不足しています。市民フォーラムなどの講演会に広島県教育委員会や広島労働局の職員を招き、患者さんや家族のために福祉や就労に関する制度について話してもらっています。

また、支援を必要とする人を地域で連携して支えていく「地域包括ケアシステム」の考え方も大事だと捉えています。今後、お年寄りだけでなく、てんかんの患者さんや障害がある人などを地域で支えるためのシステムとして、深化させることが大切です。

平松 1次診療の機能アップ



広島県健康福祉局長  
菊間 秀樹さん

を目指す上で、参考になるのが、認知症の相談窓口となる「オレンジドクター」です。認知症の早期診断と支援体制の充実を図るために、研

広島大病院てんかんセンター長の飯田幸治さんらを講師に迎えた市民フォーラム2017「てんかんを考える」(中国新聞社主催)が9月10日(日)13時30分から、広島市東区の広島県医師会館1Fホールで開かれます。聴講を希望される方は、はがき、ファクス、電子メールのいずれかで30日(水)までにご応募ください(必着)。入場無料。定員は300人。応募多数の場合は抽選になります。

9月10日に市民フォーラム2017

「てんかんを考える」

はがき 〒730-0854 広島市中区土橋町7-1中国新聞ビル4F 問い合わせ 082-236-2860  
メディア中国医療セミナーチーム (土日祝除く9:30~17:30)  
「てんかんセミナー」係 郵便番号、住所、年齢、電話番号、参加人数、てんかんに関する質問(あれば)を明記してください。  
FAX 082-232-7977 ※質問は講演や質疑応答の参考にさせていただきます。  
電子メール event-2@media-chugoku.jp ※個人情報は、聴講券の発送と、抽選にもれた方への通知(応募多数の場合)のために利用し、メディア中国が責任を持って管理します。

広島大病院てんかんセンター ☎082(257)1719

企画・制作 中国新聞社広告局